

〈はじめに〉

イスラエルの民は出エジプトの翌年には、カナンの南の国境に位置するカデシュ・バルネアに到着します。本来ならば、その後すぐにも、カナンに入ることができたのです。神は当初、そのためにイスラエルの民をそこに導かれました。けれどもこのいちばん大切な時に、イスラエルの民は主に対して不信仰を示し、主に反逆しました。そのためイスラエルの民は、四十年間、荒れ野を放浪しなければならなくなります。

〈カナンの土地の偵察〉

13章にはモーセが主の命令に従って、十二人をカナンの土地を偵察させるために遣わしたことが記されています。モーセは十二部族の各々の部族の中から一名ずつ代表を出させました(13:4-16)。なぜなら、カナンの土地の偵察が特定の部族や個人の働きではなく、イスラエル共同体全体の使命であり責任であるからです。

偵察の結果、彼らはカナンの土地が、神が約束通り「乳と蜜の流れる所」であることを確認しました(13:27)。しかし、彼らはその土地の住民が強そうであったこと、すべての町が高い城壁に囲まれて堅固であったことから(13:28)、カナンに土地に上って行くのは不可能であると主張しました(13:31)。また、偵察者たちは「アナク人はネフィリムの出なのだ」(13:33)と言いました。アナク人は背の高い人たちであったようですが、偵察者たちは彼らをネフィリム(創世記6:4)の子孫であると誇張しました。当時の人々はネフィリムを恐ろしい巨人であると考えていました。こうして偵察者たち(カレブとヨシュアを除いて)は、カナンの土地が素晴らしい約束の地であることを見たにもかかわらず、カナン人の姿と町を見て恐れ、主の約束に反する誤った証言をしたのです。

〈民の反逆と神の裁き〉

14章には、偵察者たちの報告を聞いたイスラエルの民の神への反逆と、反逆の民に対する神の裁きが記されています。報告を聞いた民は非常に

落胆し泣き言や不平を言いました。彼らはまたもや出エジプトの恵みを忘れ、ついには新たな指導者を立てエジプトに引き返そうとしました(14:1-4)。こうした状況の中、カレブとヨシュアは共同体に対して、「主が我々と共におられる。彼らを恐れてはならない」(14:9)と語りました。けれども、共同体全体は二人の言うことを聞くどころか、逆に彼らを石で打ち殺そうとしました。しかし、まさにその時、主の栄光がイスラエルの民々すべてに現れたのです(14:10)。主は、イスラエル共同体を滅ぼし、モーセを強大な国民にしようと言われました。モーセの必死の執り成し(14:13-19)の結果、主はイスラエルを滅ぼすことを思い留まられます。しかし、主の約束を信じようとせず、主に反逆したイスラエルの民(カレブとヨシュアを除いて、戸籍に登録された20歳以上の者すべて)には、厳しい裁きが宣告されました(14:19-30)。すなわち彼らは誰一人約束の地に入ることができず、四十年間荒れ野を放浪し、最後には荒れ野で死ななければならないとされたのです(14:32-35)。さらに、共同体をモーセに反逆させるために悪い情報を流した偵察者たちは、主の御前で疫病にかかって死んでしまいました(14:36-38)。

イスラエルの民は約束の土地カナンに入る一歩手前まで導かれたにもかかわらず、結局、主の約束を信じないで、主に反逆することで神の裁きを招いてしまいました。つまり四十年にわたる荒れ野の放浪という試練はイスラエル共同体の罪の故に起こったことです。そして、その根本原因は彼らが主を畏れるのではなく、人を恐れてしまった点にこそあったのです。人間は主を畏れることを忘れ、人を恐れる時、主に背いてしまうのです。しかし、わたしたちはそれでも主がこの荒れ野の試練を用いて、イスラエルの信仰を成長させ、ついには救いを成就されたことを忘れてはなりません。(弓矢健児)

テキスト 民数記 13～14章
参照カテキズム 子どもカテキズム 問13,14

〔単元のねらい〕

聖書の首尾一貫したメッセージ、「神が我々と共におられる～インマヌエル～」がここにも示されている。このメッセージは、今の時代の子どもたちにとって、切に必要なメッセージであろう。主が共におられることによる平安と勇気が聖霊によって与えられる中で、子どもたちを一週間のこの世での生活へと見送ることができればと願う。

「主と一緒にいてくださるので」

愛する子どもたち、おはようございます。
今日も、モーセさんとイスラエルの人たちのお話をしましょう。
さて、神さまは、エジプトの国で奴隷として働かされていたイスラエルの人たちを愛して下さって、モーセさんをリーダーとなさり、エジプトの国から救い出してくださいました。働き盛りの男の人だけで60万人でしたから、女の人とかお年寄りとか子どもをあわせると、たぶん100万人以上の人たちが、エジプトの国を脱出したと思います。まさに民族の大移動です。それで、神さまは、イスラエルの人たちをどこに導こうとされたのでしょうか？ それが、今、パレスチナと呼ばれているカナンという土地でした。“乳と蜜の流れるカナン”と呼ばれていて、農作物がいっぱい収穫できる、豊かな土地でした。今日のお話は、イスラエルの人たちが、そのカナンにあともう少しのところに導かれたときのことです。

神さまは、モーセさんにお命じになりました。「何人か、人をやって、カナンという所が、どんな所か、調べさせなさい」。
それで、モーセさんは、神さまのご命令に従って、男の人を十二人選んで、言いました。「カナンという所に行って、そこがどんな所か、よく見て来なさい。そこに住んでいる人たちが、強いか、弱いかも、よく、見て来なさい」。

早速、十二人の男の人たちは、カナンという所に入って行きました。すると、“乳と蜜の流れる

カナン”と呼ばれているだけあって、そこには、おいしいぶどうとか、いろいろな果物がたくさんなっていました。けれども、大きく強い人たちが住んでいることにも気づきました。それで、男の人たちは、その果物を採って、モーセさんの所に帰って行きました。そして、みんなの前で言いました。

「カナンという所は、とってもすばらしい所です。こんなにおいしい果物がたくさんなっています。けれども、そこに住む人たちは、とても強いのです。もし、戦いをすれば、わたしたちは負けるでしょう」。

これを聞いて、イスラエルの人たちは、とっても恐ろしくなって、言いました。「カナンという所がとっても強い人たちが住んでいるんだったら、そんな所に入って行ったら、その人たちにやつつけられてしまうだろう！」。

だけど、十二人の内、二人の男の人は違ったのです。ヨシュアさんとカレブさんは、みんなの前でこう言いました。「こわがることはありません。神さまがわたしたちといつも一緒にいてくださるので、大丈夫です」。

さて、もし、みんながイスラエルの人たちだったとしたら、二つの報告を聞いてどう思う？

イスラエルの人たちは、ヨシュアさんとカレブさんの言うことは聞きませんでした。カナンの土地に住んでいる人たちは、大きくて強いから、そんなところに行きたくないと思ってしまったので

す。神さまは、イスラエルの人たちに、カナン
の土地に導くと約束して下さったのに、それを
完全に忘れてしまいました。そして、神さまが
いつも一緒にいて守ってくださることも忘れ
てしまいました。それで、カナン土地がすぐ
目の前でしたが、神さまは、すぐには導か
れないで、それから四十年かかって、ずっと
遠回りして、カナン土地へと導くことにな
されたのです。

神さまは、目には見えませんが、御自分
を信じるならば、いつも一緒にいて守って
くださると約束して下さいました。わたした
ちの時代では、主イエスさまがいつも一
緒にいて守って下さいます。主イエスさま
は、天に昇られるとき、こう

約束して下さいました。「あなたがたに命
じておいたことをすべて守るように教えな
さい。わたしは世の終わりまで、いつもあ
なたがたと共にいる」(マタイ28:20)。

主イエスさまは、御自分がなされた約
束を簡単に破るようなことは決してなさ
しません。ちゃんと守って下さって、目
には見えませんが、いつも一緒にいて守
って下さいます。さあ、今日から始まる
一週間も、イエスさまが、お家でも、
学校でも、いつでもどこでも一緒にい
て守って下さることを信じて、安心して
生活しましょう。

(長谷川潤)

[今週の暗唱聖句] 民数記 14章9節 (後半)

主が我々と共におられる。彼らを恐れてはならない。



〈ねらい〉

ヨシュアとカレブの行動を通して、わたしたちは決して強くはないが、主なる神様がわたしたちと共におられるので、恐れることはないということを知らせる。

〈展開例〉

テキストの背景や説教を振り返って、子どもたちと話し合いながら進めてもよい。

- ・民数記には何が書いてありますか。
⇒イスラエルがエジプトを出てから、神様がお与えになると約束してくださったカナンの地に入る前までの約40年間の、シナイの荒れ野のできごとが書かれています。
- ・神様は、イスラエルとどんな約束をしてくださいましたか。
⇒13章2節、出エジプト記3章8節などを参照。
- ・乳と蜜の流れる土地と言われるカナンは、どんな所でしょう。
⇒乳（牛、ひつじ、ヤギ、らくだなどのミルク、そしてこれらから作られたヨーグルトやチーズなど）や蜜（蜂蜜やナツメヤシの甘い汁、果汁を煮詰めたものなど）が豊かにある所。ということは、家畜を育てるのに適して、花や果物のなる木がたくさん生えた所だったのでしよう。
- ・何人の人がカナンを調べに行っただしょう。人数の意味は？ どのようなことが分かったのでしょうか。イスラエルが来る前に、どのような人たちが、どのように暮らしをしていたのでしょうか。
⇒13章2節、25～29節などを参照。十二部族の代表の人たちが行きました。強そうな人たち（アマレク人、ヘト人、エブス人、アモリ人、カナン人）が、城壁で囲まれた町を作って住んでいました。強いと思うので、巨人のよう

に大きく見えました。

- ・カナンを調べた結果を聞いて、そこへ行くことに、イスラエルの人たちは賛成しましたか。反対しましたか。報告は本当のことばかりでしたか。
⇒反対した人（13:31～33など）、賛成した人（14:6～9など）は誰でしょうか。それぞれの理由やどうしてそうなったのかなど。
- ・イスラエルの人たちは、神様とカナンに住む人たちと、どちらのほうがこわいと思ったのでしょうか。
⇒神様の約束を忘れて、カナンに住む人たちのことを恐れてしまいました。そのために、カナンを目の前にしながら40年も遠回りすることになってしまいました。
- ・今回のお話から、神様がどのような方であることがわかりますか。
⇒14章11節以下を参照。様々なしるしでイスラエルにご自身を示してくださる方、約束を守ってくださる方、辛抱強く待ってくださる方、共にいて導いてくださる方、それと同時に罪を憎み「罰すべき者を罰せずにはおかれ」ない方、など。

〈お祈り〉

イスラエルの人たちは、神様の約束を忘れ、エジプトから救い出してくださったことも、荒れ野でのどが渴いたときに水をくださったことも、おながすいたときにマナとウズラの肉をお与えくださったことも忘れ、神様に背いてしまいました。しかし、わたしたちは、いつも神様が一緒にいてくださることを信じたいと思います。どうか、毎日恐れずにすごすことができるよう、わたしたちを強めてください。イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン。

〈ねらい〉

神様は、どんなときにも私たちと共にいてくださいます。

〈はじめに〉

11月が目前です。今年も残り二ヶ月です。子どもたちは今日も元気でしょうか。クリスマスと共に喜び迎えることができるよう、今から礼拝出席を励まし、一人ひとりの存在を、神様は大事に思ってください、この分級の中でも、大事な一人ひとりであることを、いつも確認しあいましょう。

〈御言葉に聴きましょう〉

- ①神様は誰にお話をされましたか。(1節)
- ②神様はモーセさんに、イスラエルの人々をカナンの土地に行って、何をしなさいと、言われましたか。(2節)
- ③カナンの土地に行って調べてくることはどんなことでしたか。(18～20節)

〈展開例〉

イスラエルの人々のカナンを目指しての旅はまだまだ続いています。カナンにだんだんと近づいたある日、神様は、モーセに言われました。「部族ごとに一人ずつ指導者を出して、カナンの土地を偵察させなさい」ということは、12人の男の人たちが、カナンがどんな所なのか、調べてくるということです。モーセさんは12人を選んで、「カナンがどういうところか、そこに住んでいる人たちは、強いか弱い、たくさんの方が住んでいるのか、良い土地かどうか、城壁があるのか、木がたくさんあるか、そして果物を取ってきなさい」ちゃんと調べてくるように命令を出しました。12人は早速でかけました。

40日たって、12人はモーセとアロンのもとに

カナンでとれた立派な果物を持って帰ってきました。そして、報告をしました。「カナンは乳と蜜が流れるすばらしい所でした。でも！そこに住んでいる人たちは強くて、町はしっかりと城壁で囲まれて、大きな巨人もいました。私たちがカナンに上っていくのは無理です」と報告しました。

それを聞いたイスラエルの人々はまたまたたくさんの方の不平を言い始めました。「私たちをどうして、こんなところまで連れてきたのか？エジプトにいたほうが良かった。私たちをここで殺すつもりなのか」といつもと同じ文句です。

そう言って、騒々しくなったとき、12人の中の二人の指導者が立ち上がって、みんなを静めて言いました。その二人の名前は、ヨシュアさんとカレブさんと言います。彼らは言いました。「私たちが見てきたカナンは素晴らしい土地でしたよ。神様のみこころにかなう土地でしたら、必ず、神様が私たちを導き、与えてくださいます。確かに大きな強そうな人がいますが、恐れてはいけません。神様はわたしたちと共にいてくださいます。彼らを恐れてはいけません！」何と、力強い言葉でしょう。でも、残念なことに人々はヨシュアさんとカレブさんの言うことには反対して、残りの10人の指導者たちの言葉に従ってしまいました。

神様は悲しまれました。「私を信頼しないイスラエルの人々は、このまますぐにカナンの土地には入れさせない。」と言って、神様は、イスラエルの人々をまた40年旅を続けさせて、カナンまで導かれました。

〈お祈り〉

神様、私たちはすぐに恐くなったり、疑ったり、心配してしまう弱い者です。神様が共にいてくださることをいつも信じていることができる強い子どもにしてください。アーメン。

〈ねらい〉

イスラエルの民の姿をとおして神さまを信頼し、ゆだねることの大切さを学び取る。神さまが私たちといつも一緒にいてくださることを感謝し、神さまにより頼む者となるよう導く。

〈ワーク〉

聖書地図「2. 出エジプトの道」を見せながら、聖書を聞き下記の問いに取り組みましょう。

【復習】

1. モーセは神さまのご命令に従い「幕屋」を建て礼拝をささげましたが、現代の私たちにとっての「幕屋」は何でしょうか？

(解答例：教会)

【13章17～20節】

2. 神さまに命じられたモーセは、カナン土地のどんな事を偵察させましたか？

A：カナンまで行く道を迷わないように調べさせた

B：カナンに住む人や町の様子、土地が良いか悪いかを調べさせた

【13章27～29節】

3. 偵察に行ったカナンはどんな所でしたか？

A：何も無いひどい所だった

B：良い土地であったが、土地の住民は強そうで町には城壁があった

【13章31～33節】

4. どうしてイスラエルの民はカナンへ行くことを恐れたのですか？ ○に入る言葉は？

「彼らは我々より○○」

「我々が偵察して来た土地は、そこに住み着こうとする者を○○○○○のような土地だ」

(解答例：強い／食い尽くす)

【14章1～4節】

5. 偵察したカナンについて悪い情報を聞いたイスラエルの民はどうしましたか？

A：そのままカナンへ向かった

B：カナンのとなりの町へ行った

C：不平を言いカナンへ行くのをやめエジプトへ帰ろうとした

【14章6～9節】

6. 偵察をした者のうちヨシュアとカレブはどのように言って、カナン人を恐れているイスラエルの民を説得しようとしたか？ ○に入る言葉は？

「○が我々と共におられる。彼らを恐れてはならない」

(解答例：主)

【14章33～35節】

7. 神さまの約束を信じないで、そむいたイスラエルの民は何年間荒れ野を放浪する試練が与えられましたか？

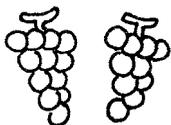
(解答例：40年間)

8. 私たちの時代では目には見えませんが神さまがいつも一緒に守ってくださいます。あなたはそのことを感謝し信じますか？

(解答例：神さまがいつも一緒にいて守ってくださることを感謝し、信じます。)

〈祈り〉

天の父なる神さま、あなたの尊いお名前を賛美します。神さまがいつも私たちとともにいて守ってくださることを感謝します。イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン。



〈ねらい〉

神様の約束は決断を伴うことを覚え、恐れずに神様を選ぶ信仰を求める。

〈展開例〉

①まず、荒筋を振り返る。今日の箇所ではイスラエルは約束の地カナンを目前にしていた。だがイスラエルは先住民を恐れ、カナンに入るのを拒んだ。それどころか、彼らはエジプトに戻るとさえ言いだし、神様の導きに抗い、神様に逆らった。しかし、全員ではない。偵察に遣わされていたヨシュアとカレブは恐れずに約束の地へ向かうようイスラエルに促した。

②ここには、約束の地の前で、脅威を目の当たりに、人が現わした二つの信仰の姿がある。ひとつは、恐怖に支配され神様を見失い、神様の導きを無視し、衝動に駆られ神様の約束を放り投げる姿。彼らはこれまで神様に守られてきた自分も見失い、果てには約束をも失った。代わりに与えられたのは荒れ野で終える人生だった。もうひとつは、共におられる神様に心を支配されて、神様を見つめ、勇気を与えられ神様の約束に堅く立つ姿。彼らは荒れ野での生活を共にするがその後に約束の地へと入れられる。約束の地を目前に神様は最後の試練を与えられた。脅威によって試されたのは「私の約束を信じられるか？」という問いかけである。

③すべての人は、神様の約束を前に「私の約束を信じるか？」と問いかけられる。約束を耳にした者はこの問いに何かしらの仕方では答える。君達もまた神様から「天国」を約束の地として与えられている。君達もまた約束の地を前に「私の約束を信じるか？」と問われる1人だ。「はい。信じます」堂々と答えられる人がいるかもしれ

ない。これは嬉しいこと。「いいえ。信じません」これは約束を拒否する応え方。他に「よくわからないから返事しない」このように約束を無視するのも一つの対応。沈黙によって答えを返すならば、その立場はNOの立場である。

皆はまだまだ、人生の途中。天国に行き着くそのときまで、色々な魂の成長や変化を味わう。今の皆の信仰は様々だが、人生の最後まで、君達は「私の約束を信じるか」という問いと向き合って生きる。

④約束を信じきれたヨシュアの言葉に注目したい。「主が我々と共におられる」この信仰の有る無しが、荒れ野で人生を終えるか、荒れ野を越えて約束の地に入るかの明暗を分ける。約束を信じる道を選ぶか、約束を捨てる道を選ぶかを分ける。約束を捨てた人々に、神様は一緒にいてくれなかったのか？ そんなことはない。エジプトからここまで、神様は御自分を現し続けた。海を割って救いを示し、天からマナを降らせ恵みを与え、幕屋を造って礼拝を設けられた。信じるのに十分なシチュエーションがあったのである。そのうえで約束を放り捨てるならば、神様はその人が望むとおり、御自分の約束を取り去られるだろう。

⑤君達にも、救い、恵み、礼拝が与えられている。イエス様の十字架の救い、毎日の中にある主の助け、毎日与えられる様々な恵み、そして神様と心通わせる時間。最後のときに神様と共にいることを忘れてしまわないように、これらの中で「神様が共にいること」に目を向け、約束を信じ抜く信仰を堅くされたい。

〈祈り〉

神様、共にいるとわからせて下さい。アーメン。